

周望学会かわら版

発行
周望学会
新聞編集
委員



大学祭を終えて

写真入門コース 澤田 直章

私達は正副ともに新入生で、大学祭実行委員となりました。先輩から「大学祭の委員が一番大変だよ。」と言われましたが、「写真を各自が準備し、展示する」それだけなら心配するほどではないと思っていました。

ある日、「演目はどうするの？」との一言で、目が点になりました。ですが、学舎生活の目的に友人・知人の輪を広めることがあります。この大学祭をやり遂げることで親密さは増すはず、「なせばなる！」と覚悟を決めました。高橋指導員のご指導と皆の努力で無事、写真展示と演芸大会での合唱披露を終えることが出来ました。嬉しかったのは、「ご苦勞様」とのお言葉を頂いたことです。バンザイ！

クラス全員の親密さも深まったと感じています。感謝感謝です。

大学祭を終えて

陶芸コース 福留 純恵

陶芸コースに入学して半年が過ぎました。初めて粘土に触れ、悪戦苦闘しながらも学習の中で何とか先生方の魔法の手に助けられ、形よく湯呑・花器・宝石箱等が

出来あがりしました。素焼きから本焼きなどの工程を楽しみに待ち、窯出しの日、作品を手にした時の歓喜溢れるひとは時は何とも言えませんでした。

大学祭では沢山の方々に見ていただき、クラス全員で「陶芸に親しみ夢を形に！」が実現し、お互いに喜びを分かち合い大満足でした。これからも修了記念作品展に向かって更なる研鑽を重ね、充実した作品づくりに頑張っていきたいと思っています。

『わが陶芸眺め喜び花器ならぶ』

思い出を財産に — 大学祭を終わって —

健康管理コース 行武 一成

今年の夏は異常に暑い日が続いたが、その最中、スポーツ大会の前後から大学祭について考えることが多くなった。健康管理コースのテーマをどうするか、みんなで共有できるテーマは何か、ということである。健康情報が溢れている中、焦点が定まらない。結局、自分自身の問題として「年長者と生きがい」というテーマを提案した。責任者の努力と皆さんの協力により、健康管理コースにふさわしい作品群が出来た。

年長者をめぐる統計や体力測定、「年齢と趣味」のグラフ化は、健康寿命の延びを示していた。かつて、内尾俊之先生の後半生「思い出が財産」という講義を受けたことがある。大学祭も終わった今、この夏の出来事をしっかり財産にしたいと思っている。

周望学会大学祭 (10/5~10/6)



御神輿が踊った大学祭

地域ふれあいコース 後藤 幸雄

地域ふれあいコースでは、大学祭の出し物として、大学祭・北九州市制五十周年・そしてタイミングよく開催が決定した東京オリンピックの成功を祈念して御神輿を作り、『お祭りマンボ』に乗せて即興の踊りでお祝いしました。出来ばえは今一つでしたが、「明るい笑顔で、全員参加！」の目標が達成でき、高い評価を頂いたことが一番の喜びであり、収穫でもありました。
大学祭は研修生の学習成果発表の場であり、祭典であり、さらに同窓会・シルバーバンク・OB会の人達とのふれあい・交流の場であり、絆を深める場でもあります。この伝統を絶やすことなく大切に育て、さらに発展させる努力が責務だと痛感する昨今です。

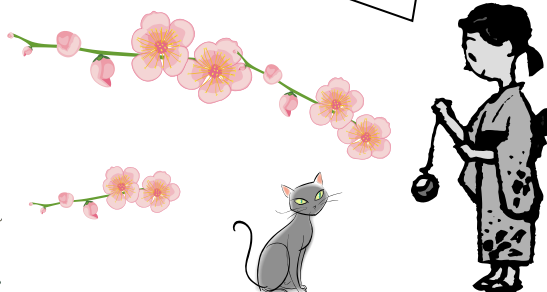
学舎最大の研修（大学祭）を終えて

国際情報コース 岡本 充功

大成功。良かった。大学祭が閉会した時、皆の喜びの声と笑顔がありました。月曜日コースの私達は休日が多く、準備や練習の時間が取れない中での計画実行となり、心配気がかりの日々でありました。しかしその状況でも太田指導員の気配り、コース委員長の助言助勢、手際の良い女性たちの動きがありました。展示物は三グループに分かれ、それぞれの資料を持ち帰り検討。合唱発表においては三回程度の全員練習で、各自の練習を期待しました。私は初めての入学で、恐れ

知らずで参画しましたが、大学祭は一年間の中で最も大変な研修と感じるところです。続く後期スタートに向け、自分らしく前向きな姿勢で、楽しく良き仲間と淡々と学んで行きたいと思えます。次は修学旅行！

盛況のうちに閉会を迎えた大学祭。期間中は工夫を凝らした学習発表や物品販売のほか、演芸大会の唄と踊りが祭りに一層の彩りを添えました。早くも次回開催が楽しみとの声も！



ご寄付ありがとうございました

大学祭での売上金で、ご寄付をいただきましたのでご紹介いたします。健康づくりサポーターコースより、血圧計をご寄贈いただきました（写真）。また周望学舎同窓会より、北九州市社会福祉協議会に寄付金をいただきました。心よりお礼申し上げます。血圧計は周望学舎ロビーに設置しています。（事務局）



寄贈式（平成25年10月15日）

春から秋へ

陶芸コース 上田 初江

暖かい陽ざしのなか入学をして、はや半年以上が過ぎました。粘土がなかなか言うことを聞いてくれず悪戦苦闘、今年の夏は特に暑かったので余計汗がピカピカ光ったようです。湯呑茶碗に始まり、只今は二重香炉に挑戦中。お陰様で世界に一つしか無い器を手にした時の感動は、忘れることは無いと思います。お友達も出来て、色々な話を聞いたり、優しく声を掛けて頂いたりしての学舎生活を送っています。私は今年の夏、北九州市の花であるひまわりを植え、種を採りました。これからもひまわりのように明るく、一歩一歩前を向き、歩いて行こうと思っています。
来年の夏は、またひまわりの花が咲きます。

ダンスとボランティア

社交ダンス入門コース 庄田 信夫

社交ダンスコースには気楽な気持ちで参加してみましたが、覚えが悪く大学祭の練習では大変苦労しました。しかし、ボランティア活動などの実践もあり楽しい経験です。また、社交ダンスとボランティア活動に共通して大事なことは、相手に対する思いやり―「愛」があることです。「愛」の文字は心が真ん中にあること、すなわち「真心」が大切だと学びました。さらに、社交ダンスもボランティア活動も「二人の世界」から「みんなの世界」へと、意識改革と実践拡大が大切なことを学ばせていただきました。これからは、もっともっと素晴らしい世界が開けてくることを期待しながら、頑張って行きたいものです。

**周望ソフトボールクラブ
アジアを学ぶコース 倉重 博充**

このたび、周望チームで七十五歳以上の選手を編成し、私が監督で九月は県、十月は西日本の各大会（宮若市）で六連勝を続けています。

連勝に貢献した三人のホームラン打者も擁しており、ます。この歳にして選手の皆さんは青春の塊であり、生気凛々としております。

この周望チームの生い立ちとはというと、平成八年度教養生活コース修了生数名を中心に、小倉北区今町グラウンドに周辺町内の同行者も集め周望学舎のグローブなどを借りて遊びの練習を始めたのがきっかけでした。三年後、古希九州小国大会で我がチームをNHKが取材し、松平アナウンサーの解説で全国放映となり感激したものです。当時の選手のうち何人かは鬼籍に入りましたが、いつまでも青春を謳歌したいと思えます。

初めてのインタビュー

書道入門コース 浜野 千代子

周望学舎の入学式に行く前に、食事をしてから参加しようとする数人と小倉駅で待ち合わせをしていた。そこいきなり、テレビ局の人とともにタレントの原口あきまささんが「どこか安くておいしい店を知りませんか。」とたずねてきた。少し着飾っていた私達が目についたらしい。私は時間に余裕もなく店名も思い出せないため、メイクは若い人に向けられていった。その出来事が放映されるのは夢にも思っていなかったが、後日自分がテレビ

に映っているのを、歯科医院の待合室で偶然見かけた。職場や親戚の人達も見ており電話がかかってきた。あらためてテレビの伝播力と皆がよく見ていることを認識した次第である。

出会って嬉しいもの

健康づくりのサポーターコース 緒方 さと子

秋晴れのやつと色づきかけた桜並木を車窓より眺めながら、体力測定に関する授業で九州福祉大学リハビリテーション学部を訪ねた。副学長の橋本教授の「リハビリとは」の講義で、リハビリとは生活障害改善のサポートであること。自身のやる気、心のケアの大切さ等々・・・ふと、五十年前ある老師の講話に、最澄の教えで「一燈照隅万燈照国」人の道について教えを受けたことがあった。この教えが私の人生の中で大きな信条になっていた。教授が講義の終わりに大切にされているこの意味について触れられ、そのお人柄に感動しました。後進の指導に人としての道をしっかりと伝えられている事が真の教育であることを深く感じ、良き出会いに嬉しい一日でした。

終活と老後とは

生活情報コース 山元 ミツエ

最近、「終活」という言葉を耳にする。それは、何時から？老後とは何時から？と思う。学舎でも年代の違う人々が同じ学級で学んでいるが、その事に違和感も、老いも感じない。入学した時とは違い、身体の故障は多くなったが、若い人にはパワーを貰い、周りの人々には思いやりを頂き、相手の

人には合わせるようにして楽しんでいる。

私はまだ終活を始めようとは思わない。まだまだ生きようと思う欲張りな気持ち強いから！人間として生まれてきたからには前向きに明るい人生を送りたいと思う。去年主人と二人の姉を見送って、さすがに落ち込んだが、その時「そんなお母さん見たくない。元のお母さんに戻って」と娘に泣かれ、初めて子供に心配をかけていたことに気付いた。人間に産まれて、私は心を磨き感謝をしてきたのだろうかと思ってしまう。この先すべてに感謝し、ありがたさを忘れず実行できた時に、終活を始めようかと思っている。そして、亡き母が私と妹の膝の上で「私は世界一幸せだった」と言っていて息を引きとったように、私も子や孫にありがたうと言っていて人生を終わりたい。

野外活動（デイキャンプ）

ふるさと文化コース 山崎 美枝子

秋空高く、さわやかな一日をデイキャンプのため、畑キャンプ場に行きました。胸いっぱい空気を吸ってみたくなり、思いきり深呼吸をしました。

各班での昼食の用意、自慢の味付け料理が出来たようでした。私達の班も最高の味で、とてもおいしかったです。澄み渡った空の下で世間話に花が咲き、このような時間が私には一番楽しく、また皆で食事することのおいしさを感じました。若い時の想い出が浮かびます。今回、私は初めての経験でよく分からなかったのですが、キャンプ場の周りをウォーキング出来たら良かったと思いました。

周りの景色に感動し、親交を深めることが出来た、楽しかった一日でした。

「歴史に学ぶコース」を受講して
歴史に学ぶコース 住本 勝

「歴史に学ぶコース」を受講して、どうして「を」では無く「に」なのか？という疑問が脳裏を掠める、前者は歴史学そのものであって、先人の偉業、思想、政治等の足跡ですが、後者は足跡を一步一步と辿る事から、現在の自分自身にどのように生かすのか、人それぞれ異なることです。

研修で、広寿山福聚寺を見学しました。小倉藩主小笠原家の廟所で、七堂伽藍を配した大寺院に本堂をはじめ総門、不二門、鐘楼等は三百年の時を経て今尚、昔日の面影を留めています。北九州市に移住して二十数年が経過しますが、身近な所に立派な史跡が存在している事に驚きです。明日から「北九州の歴史に学ぶ」を生活の一部としてまいります。

季語について
国際情報コース 瀧上 篤也

私は自分の心が少し貧しくなっているなど感じる時は手元にある歳時記を捲ります。

歳時記には平安時代から使われている季節を表す美しい言葉が約二万語も載っています。例えば、早春に桜の蕾が何輪か咲くころの山の状態を表す「山笑う」。春の晴れた日に吹くやわらかい風を言う「風光る」。夏木立の青葉を揺らす少し強い風「青嵐」。秋の澄んだ空気と風を表す「色無き風」。樹や枝に降り積もった雪が重さに耐えかねてパサッパサッと落ちる様子を表す「しずり」。正月に降る雨を指す「御降（おさがり）」。

こうした季節の移ろいを表す美しい言葉に出会うと、何とはなしに心が豊かになりほっとします。

旅賓之墓
書道入門コース 荻原 康男

小倉北区清水にある清水寺の一角に、旅賓之墓がある。この墓は橋本組の小倉支店長であった橋本豊次郎氏が旧小倉市に寄進したものである。氏は新居を旧小倉市中井の小倉藩堀鼻見張番所跡に建築し櫓山荘と名付けた。瀟洒な建物で櫓山の中腹にあり崖上は白砂青松の中原海岸であった。氏は実業家であるとともに広い知識をもった文化人であった。そのため櫓山荘には里見弴、野口雨情、中山晋平、久米正雄、高浜虚子など多くの文化人が訪れ文化サロンとしての役割をはたした。また、氏自身も児童文化の振興発展に寄与した。旅賓之墓とは、旧小倉に来て行路病人として亡くなった人々でも旅の賓客として弔うべきであるという氏の考えから名付けられたものである。氏は遺言で、自分の遺骨を分骨してそこに埋葬するよう託した。墓には施主某と刻まれている。氏は貧富の差なく人と接し、目立つことをきらった。墓に施主某としたのは氏の人柄を示すものといえよう。夫人は女流俳人の橋本多佳子である。四女の美代子さんは毎年市の女性俳句の会の選者として来市の折、櫓山荘を訪れているという。



山に月生きてる今をひたすらに

心と身体健康コース 近藤 孝浩

諦めること多かりき茄子を煮る

書道入門コース 中村 直子

種蒔に自信ありきが癸芽せず

健康ダイエットコース 田原 喜代松

安倍のミクスで年金削減意気消沈

健康ダイエットコース 岸本 繁勝

嬉しけり見舞いて母に叱がもらう

心と身体健康コース 柚木 美鈴

一人居は日暮れ哀しや夜淋し

歴史に学ぶコース 鈴木 範子

